

地域の文化財を活用した鑑賞教材開発の予備的考察  
小学校教育を対象として

蝦名敦子

開発した鑑賞教材を、小学校の教員に提示し、図工科における教材としての可能性について、地域の美術文化行政をめぐる状況も加味しながら探求。弘前市内現職教員 50 名を対象に模擬授業をし、また時を違えてオープン直後の青森県立美術館を見学する。その結果から、美術館における鑑賞体験と学校での鑑賞教育の根本的な違いについて比較考察し、小学校における鑑賞教育は単に美術館に押しつけられない独自の意味がある理を明かにする。